

# 復興への願い 南阿蘇の大空へ

## 仏青50周年で1000人超のメッセージ



熊本教区仏教青年連盟（荒木勝平委員長）は11月20日、熊本地震で甚大な被害を受けた熊本県南阿蘇村の熊本県野外劇場アスペクタで、復興を願って凧揚げを行った。

凧は、縦30センチ×横43センチ、透明ビニールに骨組みと足をつけた手作り。昨年10月、本山での仏教青年連盟結成50周年記念の集いで参加者1000人以上がメッセージを書き込んだ（写真下）。

凧揚げは、熊本仏青にとって震災以来7カ月ぶりの例会。阿蘇地域への道の多くが今なお通行止めになっているため、会員たちは会場まで迂回路を通じて集合。凧を組み立ててから、横一列に並んで一斉に凧揚げに臨んだ。

「ガンバンベー、福島も頑張る！ 一緒にね」  
 「同じ九州、負けんバイ!! がんばろばい!!」

冷たい風が吹くが、この日はなぜか無風…。それでも仏青会員たちは復興への願いを込めつつ、なだらかな坂道

を全力で駆け下りていった（同上）。

熊本仏青会員の渡邊実佳さんに誘われ、友人の成川順奈さん（28、益城町）を誘い参加した太田晴さん（27、熊本市）は「凧揚げなんてなかなかい企画で面白そうと参加しました。全国の方が応援してくださり、うれしい」と語る。

また、橋本俊樹さん（24、福岡県大牟田市）は「熊本市」は「凧揚げなんてなかなかい企画で面白そうと参加しました。全国の方が応援してくださり、うれしい」と語る。

また、橋本俊樹さん（24、福岡県大牟田市）は「熊本市」は「凧揚げなんてなかなかい企画で面白そうと参加しました。全国の方が応援してくださり、うれしい」と語る。

「この機会があればぜひ参加したい」と思いを語った。震災で活動を停滞させ、増やしていきたい」と、荒木委員長は「この機会には、震災後の第一歩。被災した会員も多のつながりができる活動を行っていき、仲間を」と語り続けた。

また、橋本俊樹さん（24、福岡県大牟田市）は「熊本市」は「凧揚げなんてなかなかい企画で面白そうと参加しました。全国の方が応援してくださり、うれしい」と語る。